

46歳、4児の子育てをしている父親です。平日頃、子ども達は、日々進化していく社会において自分の幸福を大切に、優先順位の選択をしていくてほしいと感じています。

今日、IT関連の話題として、アメリカのオープンAI社が公開している、自然な言葉で文章生成するAI（人工知能）と雑談できるサービ「チャットGPT」も素敵なオリジナルの絵になりました。

「時代が変わった」の一言に尽きます。AIの能力はアメリカの司法試験受験者の上位10%の水準にあると言われている、雑談のレベルは高く、まるで人間を相手にしているよう

で、チャットGPTに質問や依頼内容を打ち込むと数秒で回答が始まります。先日、チャットGPTで、AIに長女の入学祝い花束を考えたもらったのですが、予算金額と長女の好み、旬の花など条件を加えて打ち込むと、あっという間に回答が出てきました。

文章から感じる花束の雰囲気良かったので、その文章を別の画像生成AI「サード」に打ち込んで花束の絵を描いてもらいました。こちら

文章から感じる花束の雰囲気良かったので、その文章を別の画像生成AI「サード」に打ち込んで花束の絵を描いてもらいました。こちら

文章から感じる花束の雰囲気良かったので、その文章を別の画像生成AI「サード」に打ち込んで花束の絵を描いてもらいました。こちら

文章から感じる花束の雰囲気良かったので、その文章を別の画像生成AI「サード」に打ち込んで花束の絵を描いてもらいました。こちら

デジタルとアナログの間を生きる

飯田理一朗

テーマを与えると、私になりきって文章を書いてくれます。いくつかテストしてみましたが、多少修正は必要ものの言葉の選択や使い回しなどは私をすっかり、妻や友人も私の文章として違和感がなかったようです。本当に凄い時代になったと感じています。

社会のデジタル技術が私自身、感じるものがありません。私は主に住宅リフォームをメインに、様々なお客様と仕事をさせて頂きたいと思っていますが、世の中には何一つ同じものが無いと実感しています。

現場調査に入った段階で、建物の建った時代や周囲環境、お客様の住まい方が違うので、同じ条件

現場調査に入った段階で、建物の建った時代や周囲環境、お客様の住まい方が違うので、同じ条件

① 〇と1では表現できません。同じものはなく、諸行無常な連続体、アナログな存在。そんなアナログで起る問題に対しては、デジタルでは近似値までは対応できても、完全にできないのです。

人間は怠惰な生き物だと私自身自覚します。ですから容易にデジタル思考でデジタルに手を出しません。しかし、時にはデジタルを捨て、本気でアナログに立ち向かうことが大事なのではないかと考えます。

「デジタルとアナログの間を本気で生きる」

生まれながらにIT社会があり、デジタルネイティブと言

(原町中)